

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2020年10月30日

【運用実績】

過去のパフォーマンス(%)	直近の分配実績(円)	
	ファンド	TOPIX配当込
過去1ヵ月間	0.49	-2.84
過去3ヵ月間	3.43	6.47
過去6ヵ月間	12.46	8.95
過去1年間	5.88	-2.95
過去3年間	12.63	-4.00
設定来	162.62	100.86

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	61.7	36
ショート	-30.0	47
ネット	31.7	-
グロス	91.7	-

※ 比率は対純資産総額
※ ネットはロングとショートとの差引、グロスはロングとショートとの合計です。

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	47.5
東証2部	0.0
東証マザーズ	11.3
ジャスダック	2.9
その他市場	0.0

※比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

業種	比率(%)
情報・通信業	9.2
機械	9.1
サービス業	7.6
電気機器	6.6
医薬品	6.0
その他	23.2

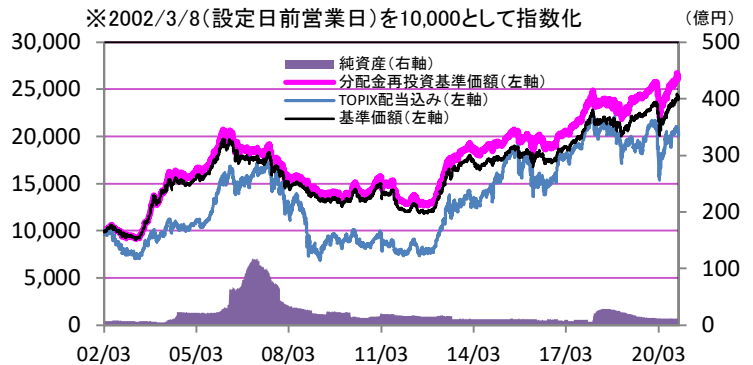
※比率は対純資産総額

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
24,099 円	24,027 円	11.30 億円

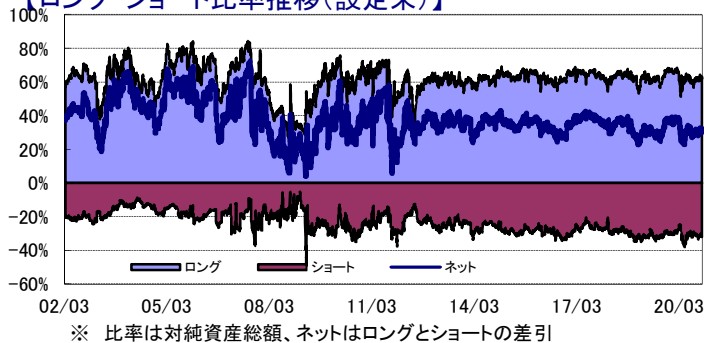
ハイ・ウォーター・マーク 23,374 円

※ 基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
※ 当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年3月10日、休日の場合は翌営業日)および毎計算期間の最初の6ヵ月終了日に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。



※2002/3/8(設定日前営業日)を10,000として指数化 (億円)
※基準価額は信託報酬・実績報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



※ 比率は対純資産総額、ネットはロングとショートとの差引

【組入有価証券上位10銘柄(ロング)】

順位	銘柄	業種	比率(%)
1	ギフト	小売業	4.1
2	ペプチドリーム	医薬品	3.5
3	村田製作所	電気機器	3.1
4	SUMCO	金属製品	3.0
5	日揮ホールディングス	建設業	2.8
6	DMG森精機	機械	2.8
7	SMC	機械	2.5
8	UTグループ	サービス業	2.5
9	ダイキン工業	機械	2.5
10	オロ	情報・通信業	2.4

※比率は対純資産総額

※ 上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。

※ 「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等については当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2020年10月30日

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

2020年10月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比2.84%の下落となりました。

当月の日本株式市場は、トランプ米大統領の新型コロナウイルス感染などを受け、先行き不透明感から下落で始まりました。その後、米国議会における追加経済対策法案の成立期待に支えられ、おおむね堅調に推移しました。

月半ば以降は、米国議会で与野党協議が難航し追加経済対策法案の早期成立が不透明となったことや、月末にかけて欧州諸国を中心に新型コロナウイルス感染再拡大が顕著になる中で下げ幅を広げ、月を終えました。

【運用状況】

10月の当ファンドは、レノバ、AI insideなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

レノバは、菅首相が2050年までに温室効果ガスの実質排出ゼロを目指すことを発表したことで、同社が手掛ける再生可能エネルギー発電所の開発と運営事業に対する将来性が評価され、株価が上昇しました。AI insideは、新たなパートナー契約の締結が発表されたことで成長への期待が高まりました。

一方、日揮ホールディングス、リックソフトなどが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

日揮ホールディングスは、前述の菅首相による温室効果ガスに対する所信表明で環境意識が高まることで同社が手掛ける化石燃料関連プラントの長期的な需要に対する先行き懸念が高まり、株価が下落しました。リックソフトは、2021年2月期第2四半期決算で製品の開発費用などが先行し経常利益が第1四半期に続いて減益だったことで将来の業績成長に対する懸念が高まり、株価が下落しました。

株価が大きく上昇した銘柄を売却し利益を確定する一方で、投資魅力が高いと判断した企業に新たに投資を開始し、投資先企業の入れ替えを行った結果、グロスポジションは前月に比べ低下し、ネットポジションは前月に比べ上昇しました。またネットポジションは当ファンドが考える中心値30%を少し上回る水準としました。

【運用方針】

日本株式市場は、新型コロナウイルス感染拡大後の高値圏でもみ合いを続けています。これから冬を迎える欧米諸国で感染再拡大がみられること、米国大統領選挙の行方に対する「不安感」などが株式市場の上値を抑えています。

当月は、新たに組み入れた「I-ne」についてご紹介します。

同社は「BOTANIST」ブランドのヘアケア製品を主力とし、様々な美容関連製品を企画・販売する新興企業で、製品企画や販売の面でSNSやeコマース（電子商取引）を活用するデジタルマーケティングを強みとしています。

具体的には、これまでの「綿密なニーズ調査を行い、大量広告、大量生産、大量販売」というモデルに対し、「AIを活用し様々なメディアからトレンドを吸い上げ、新興企業特有のスピード感で企画し、SNSやeコマースを活用し顧客の反応を見ながら販売のアクセルを強めていく」のが同社の手法です。そのため、新しいトレンドの製品をいち早く投入でき、小さく事業を始めるためヒットしなかった場合でも損失を低く抑えられる「強み」があります。同社によるとヒットしなかった場合の損失が限定的であるため、毎年10程度の新規ブランドを立ち上げ、そのうち2~3ブランドのヒットで、売上を増やし成長を続ける方針とのことです。

当ファンドが期待している点は、「BOTANIST」を中心とする中国における事業展開です。オンラインでは中国最大のECモールである「Tmall.com」で販売が開始されており、対面販売では中国の有力なドラッグストアでの取り扱いが始まる見込みです。国内において、自然派のコンセプトと独特のボトルデザインが消費者に受け入れられ、発売後わずか約5年でトップクラスのヘアケアブランドに成長しました。

中国においても、比較的所得が高く「日本同様の嗜好を持つ消費者」に受け入れられ、その潜在的な市場規模は日本以上であると、当ファンドは考えています。

同社は、以前から中国での事業展開を行っていましたが、現地での販売を現地ブローカーに委ねていたため、価格設定やマーケティング・ブランディング手法をコントロールできずに伸び悩んでいました。そこで、直近1~2年は減収を覚悟の上で現地ブローカーへの販売を抑え、自社でマーケティングを行う体制を整えてきました。ドイツの日用品ブランドのeコマース販売で実績のあるアドバイザーを招聘し、現地の商慣習やマーケティング手法に合わせた形で再スタートを切りました。

「BOTANIST」は中国でもヒットする潜在力のあるブランドであり、過去の失敗を経験し体制を整えた上での再挑戦であるため、中国事業が成功する確率は高く同社の成長を牽引すると、当ファンドは考えています。

ショート投資では、飲食店向け設備を生産販売する企業A社に対して、投資ウェイトの積み増しを行いました。「コロナ禍」収束後の業績回復を見込んで株価が高水準を維持していますが、閉店した飲食店からの中古設備の供給が増えることを考慮すると、A社の業績回復は簡単ではなく、今後業績の下振れから株価の下落余地は大きいと、当ファンドは判断しました。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。